

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	日米教育交流プログラム拠出金		事業開始年度	平成21年度		作成責任者
担当部局庁	大臣官房国際課		担当課室	国際課企画調整室		企画調整室長 阿蘇 隆之
会計区分	一般会計		上位政策	国際交流の推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計 画、通知等	日米文化教育交流会議報告書(平成20年6月12日)		
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	昨今の日米首脳会談や平成20年6月12日にまとめられた日米文化教育交流会議(カルコン)の報告書で、日米両国間の知的交流、教育交流、草の根交流のさらなる強化が求められていることから、日米両国首脳の合意に基づき平成9年度から実施してきたフルブライト・メモリアル・プログラムを再編し、両国間の教育・文化分野の交流のさらなる促進と我が国の教育・学術・文化等の振興を図る。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	<input type="checkbox"/> 持続発展教育(ESD)に関する日米教員交流プログラム:日米双方において、ESDに関心を有する教員を招へいし、ESDに関する意見交換・共同研究等を行うことにより、日米の教育交流を増進するとともに、ESDに関する理解を深める。 <input type="checkbox"/> 日米青年交流プログラム:日米の高校・大学・大学院生が、両国関係やESDをはじめとするグローバルな問題等について意見交換を行うことにより、両国の青年層の交流を促進する。 <input type="checkbox"/> 次世代の日米関係を担う人材育成プログラム:次世代の日米関係を担うリーダーとなりうる日本の人材、国際的に活躍できるビジネス関連の人材養成等に資するため、日本の優秀な若者10名を米国の大学院に留学させる。					
実施状況	<input type="checkbox"/> ESDに関する日米教員交流プログラム:平成21年度にパイロット・カンファレンスを実施。日米各15名の教員が参加。 平成22年度に本事業として日本人教員47名が訪米(4~5月実施)、米国人教員48名が来日予定(6~7月)。 <input type="checkbox"/> 次世代の日米関係を担う人材育成プログラム:平成22年度から米国に留学する奨学生10名を募集選考。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	-	-	200	200	0
	執行額	-	-	200		
	執行率	-	-	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	-	-	200		
自己点検	支出先・ 用途の把 握水準・ 状況	年に6回開催される日米教育委員会(日本側:文部科学省国際統括官、外務省広報文化交流部参事官他民間有識者5名、米国側:米国大使館公使、書記官他民間有識者5名で構成。現在、国際統括官が委員長。)において、本日米教育交流プログラムの実施案の審議、参加教員の選考等を行い、事業全体の進捗状況を把握している。また、同委員会事務局に適宜事業の実施状況について確認するとともに、随時報告を受けている。				
	見直しの 余地	<input type="checkbox"/> 日米教員交流プログラムについては、日米両政府からの拠出金によって実施されており、引き続き米国政府の強力な関与を求める。 <input type="checkbox"/> 同委員会事務局の事業運営について、より効率的な予算執行が行われ、同委員会に対し適切かつ十分な情報提供がなされるよう、要請する。				
予 算 監 視 の 効 率 化	1. 事業評価の観点:この事業は、フルブライト・メモリアル・プログラムを再編し、両国間の教育・文化分野の交流のさらなる促進と我が国の教育・学術・文化等の振興を図る目的で行っている事業である。今回事業効果の観点から検証を行った。 2. 所見:日米教育委員会に拠出した結果、文部科学省が期待した事業が行われ、また事業効果が達成されているのかを確認し、これまで蓄積された事業の成果を踏まえ、効率化を図るとともに他の類似事業との統合を視野にいれ、廃止のうえ整理統合すべきである。					
補 記						

日米教育交流プログラム拠出金

文部科学省
200百万円

【拠出金】

A. 日米教育委員会：
200百万円

- ・ESD日米教員交流プログラム
- ・日米青年交流プログラム
- ・次世代の日米関係を担う人材育成プログラム

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.日米教育委員会			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
拠出金	日米教育交流プログラムの運営に必要な経費	200			
計		200	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。使途と費目の
 双方で実情が分かるように記
 載)